

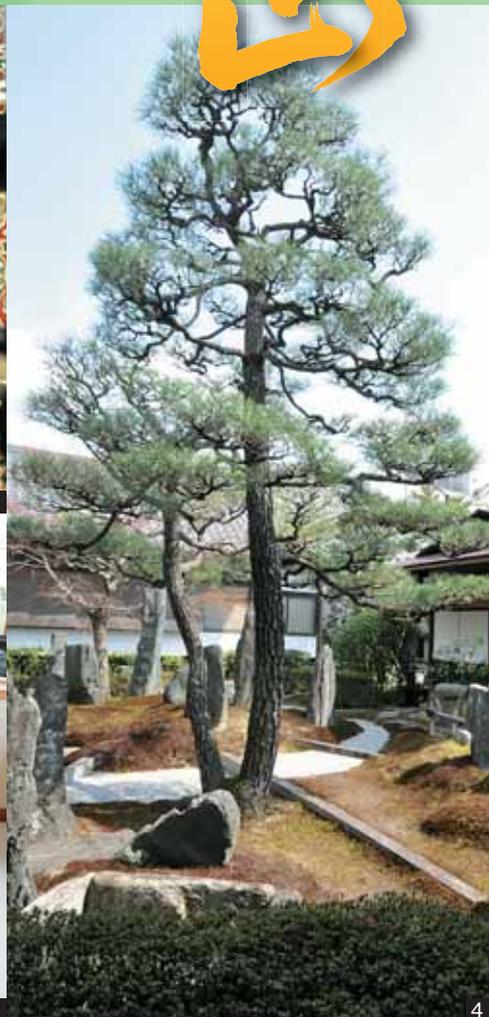
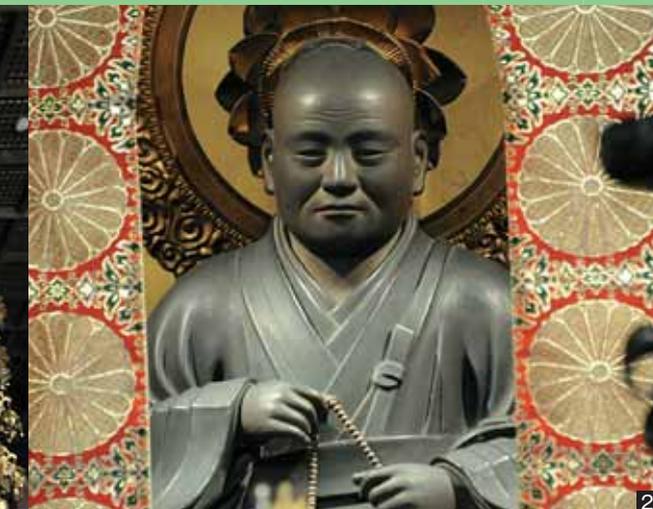
梅窓院通信

お盆号

No.53

2011/06/01

青山



特集 清浄華院より／

- 1 大殿内陣に法然上人木像が祀られている。 2 清浄華院の法然上人像は若くハンサム。参拝者から「イケメンやなー」との声があがるとか……。 3 今春、清浄華院の法主(住職)にあがられた 台下と中島梅窓院住職。 4 接見の間の中庭、有名な庭師さんお手による庭園だ。

住職挨拶

梅窓院第二十五世

中島 真成

皆さま、こんにちは。

ご挨拶の前に、東日本大震災物故者の方々のご冥福を祈念し、ご供養のお念仏を申し上げます。

南無阿弥陀仏

また、被災者の皆様には衷心よりお見舞い申し上げます。

梅窓院には被害の大きかった陸前高田をはじめ、東北地方に六軒のお檀家さんがいらつしやいますが、皆さんと連絡がとれ、ご無事が確認できています。また、梅窓院でも数基の墓石が倒れたものの、幸い大きな被害はありませんでしたので、紙面よりご報告申し上げます。

今回の大震災で多くの行事が延期ならびに中止になりましたが、浄土宗でも宗祖法然上人の八百回目の年忌法要にあたる御忌法要が延期となりました。増上寺が来年、知恩院が今秋への延期です。知恩院は法要の御堂となる御影堂が来年には修復工事に入るため、今秋への延期になったと聞いております。

梅窓院の行事は予定通り行ないませんが、十月の文化講演会はチャリティにさせていただきます、義援金として被災地におくらせていただく予定であります。皆さまもすでに色々な形で支援をされていることと思っておりますが、梅窓院も中長期で支援をしていきたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。

お寺の話では、蓮池が完成しました。今夏に花を咲かせてくれるのを楽しみにしております。また、六月十一日には初めてとなる開山忌、そして七月のお盆法要となります。

天災地変で亡くなられた方を供養するお経を私たち僧侶は日常のお勤めの中で普段から称えていますが、自然と気持ちがいもついています。

仏教歳時風物詩 (14)

月遅れ盆と盆踊

新宿区 香蓮寺住職

勝崎 裕彦

夏

の暑さを凌ぐ方法は昔からいろいろあった。とくに江戸時代の庶民の暮らしぶりに思いを馳せてみると、今はなつかしい暑さ対策があった。暑さを凌ぐ団扇や扇子、あるいは葦簀よしずや簾すだれといった涼具はもとより、風鈴ふうりんや釣忍つりしのぶ・軒忍のきしのぶの涼し気な音やさまに暑気を忘れようとした。

とりわけ、日中の猛暑からいささかとも解放された夏の夕べ。それでもしつこい暑さの残る中、縁側や門口、軒下に出たり、河畔や池辺、橋上に涼しい場所を求めて、ささやかな涼を取る習いがあった。納涼である。歳時記では「すずみ」と読むのが普通である。晩夏の季節として、涼む・涼み台、夕涼み・宵涼み・夜涼み、縁涼み・門涼み・磯涼み・土手涼み・橋涼みなど多くの季語が加えられている。

芭蕉様の躰をかじって夕涼み (一茶)

小林一茶の軽妙な句を一つ味わってから、今回はお盆時分の夕涼みの一景に心を寄せながら、旧盆・月遅れ盆の風情を味わってみたい。

旧盆とは、文字通り旧暦・陰暦で営む盂蘭盆行事である。月遅れ盆(月後れ盆)とは、七月を一か月遅らせた次の月、八月十三、十四、十五日(あるいは

十六日)の盂蘭盆行事ということになる。しかし大方は、八月の月遅れ盆のことを広く旧盆と呼称して、なつかしいふるさとへの帰省休暇の意味を含めた「お盆休み」の国民休暇のふうが定着している。

そうしたお盆休みの夕景に、家族や知人友人と浴衣着ゆかたぎ・浴衣掛けにくつろいで、身と心を安らげるのは、今は亡き精霊への供養がもたらす大いなる功德と受けとめることもできよう。そして、みんな連れ立って盆踊に足を運び、踊りの輪の中に笑顔を分け合うのも楽しいことである。現今の盆踊は、ふるさとのお寺の境内で行なわれるばかりでなく、都市部でも郊外でも、地域やコミュニティの大切な催事として全国各地に広く行なわれている。

一般に盆踊とは、樽を取り囲んで丸く輪に踊ることが多い。一方、阿波踊に見られるように、大勢が集まって群れて踊り歩く群行ぐんこうによる形式もある。いわゆる輪踊型わおどりと群行型の踊りのさまの二形式である。

元来群行型の踊りは、新盆の家々を巡歴しながら踊り歩くことからはじまり、精霊を迎える祖霊来臨形式の盆踊である。これに対して、空也・一遍由來おどりねんぶつする踊念仏おどりねんぶつの流行が、年々定期的に

繰り返されるお盆行事と習合し、念仏踊による盆踊が盛んとなった。民俗学的には、群行型盆踊と念仏踊型盆踊の二様に分類されるわけである。

ところで俳諧では、盆踊のことを単に踊おどりと称して、初秋の季節としている。

以下、関連する季語を並べておきたい
—— 供養踊・精霊踊・燈籠踊、踊子・踊手・踊場・踊の輪、踊唄・音頭取・踊太鼓・踊浴衣・踊帷子・踊笠、ながし・ぞめき・盆やつし、おけさ踊・さんさ踊・切子踊・豊年踊などなど。

小林一茶は、「六十年踊る夜もなく過しけり」と作句している。飄逸な句風の一茶らしからぬ淋しさを感じなくもないが、これがまた恬淡とした一茶の一句というものであるかもしれない。ここでは現代の俳人の二句を鑑賞したい。

ふるさとは好きよくと踊りをり

(風人子)

踊子にやはらかに足踏まれけり(二都)

高田風人子の句は、ふるさとへ心を寄せる人ならばおのずから共感するところであろう。西本一都の句は、遠い昔、私が体験したことでもある。

(大正大学教授)

平成23年 春彼岸法要
3月21日(月)



地震の影響により物産展は行わず、法要・彼岸寄席のみ執り行いました。



第52回念仏と法話の会
2月22日(火)

二月・三月の

行事予定

お盆

七月十三日(水)

盂蘭盆会法要 — 午前十時半 — 本堂

御棚経

七月十三日～十六日

※新盆で希望する方のみ

なお、棚経については同封の別紙「お盆について」をご覧ください。また、不明な点がありましたら梅窓院法務部へお問い合わせください。

回向料のお申込み方法とお知らせ

◆お盆会回向お申込み方法

回向紙 御回向料 …… 1枚 / 3,000円

- ・同封の回向紙にご記入の上、受付へお持ち下さい。
- ・一枚につき、一霊のご回向とさせていただきます。
- ・今年よりお導師さまのご回向は新盆の方のみとさせていただきます。

御塔婆 御回向料 …… 1本 / 7,000円

- ・お塔婆をご希望の方は、直接受付までご連絡下さい。
- ・御回向料は、同封の振込用紙で郵便局にてお支払頂くか、受付までお持ち下さい。(銀行・コンビニでのお支払いは出来ません。)
- ・御塔婆のお申込みは7月1日(金)までに受付にご連絡ください。

お盆を迎えるにあたって

先日の東日本大震災の後、東京都内では「買占め」が盛んに行われました。円滑な物流を妨げる結果を招きましたが、身近な家族を必死に守ろうとした行動だったのではないのでしょうか。

「お盆」のご由来であります、目蓮尊者の逸話からも同じことを読み取ることができます。目蓮尊者の家庭は、他者から施しを受けなければ生活できないほど貧しい家庭でした。そして、目蓮尊者の母親は生前、息子可愛さのあまりに周りが見えなくなってしまいうような人でした。それ故母親は、他者からの有難い施しを必要以上に貯め込んでしまい、息子である目蓮尊者だけに与えておりました。これが悪因となり、目蓮尊者の母親は貪りの世界である餓鬼道に堕ちてしまいましたが、目蓮尊者のことを第一に想っていたことは確かなことです。

しかしながら、物を必要以上に蓄えることは本当に必要とする人々を苦しめてしまいます。家族ではないからと思うかもしれませんが、私たちはご先祖様を紹介して互いに親戚関係のように繋がっているものです。自分たちだけでなく、みんなです。自分たちだけでなく、みんなです。今困っている人々を助けることができます。これこそお釈迦様の唱えた、「助け合い」の心なのです。復興を願い、心掛けていきましょう。

(法務部)

京都四箇本山のひとつ

京都御所脇

大本山 清浄華院

清浄華院は京都御所に寄り添うように建っている浄土宗の大本山だ。以前に梅窓院住職が御忌法要に唱讃導師を務めたことから、現在梅窓院は清浄華院の東京出張所となっていてうえに、梅窓院の先代や先々代とご縁のある新しい法主がこの春にあがられた(「囲む人々」参照)。そこで京都へと足をのばすことにした。

古都、京都のシンボルは？ 京都タワー、京都御所、そして知恩院……。

知恩院は少々我田引水だが、仏教諸宗派の本山はほとんどが京都にあり、そのどこもが京都の魅力のひとつになっている。中でも浄土宗は四つの本山が京都にある。

総本山の知恩院、大本山の知恩寺、金戒光明寺、清浄華院の四つだ。

今回訪れた清浄華院は貞観二年(八六〇)清和天皇の勅願により、天台宗慈覚大師円仁が京都御所内に建立し、天台・真言・仏心・戒律の四宗兼学の道場だったが、法然上人の教えに触れた後白河天皇・高倉天皇・後鳥羽上皇の三天皇が、法然上人を戒師としてこの道場で受戒したことから浄土宗寺院になったと寺伝に記される古刹である。

と同時に今年の二月に清浄華院が発行した『法然上人八百年大遠忌記念 清浄華院―その歴史と遺宝―』による



▲大本山の石碑がそびえる山門。

と、開山は第五世の向阿上人で、元弘三年(一一三三)頃、隣地の寄進を受けた時の寄進状の宛名に「浄華院」とあり、これが史料に最初に清浄華院の名前が出たものという記述がある。

このように清浄華院は今春知恩院にあがられた伊藤唯眞猊下が台下時代に企画編纂された本の中で歴史を見直している。どちらにしても関東から見ると、古さや格式の高さは別格ものだ。

格式でいえば清浄華院は四箇本山の中では最も皇室との関係が深く今も天皇皇后陛下が京都御所を訪れるときには清浄華院の法主(住職)が迎えに出るといふ。また墓地内には僧侶も一般の人も立ち入れない宮内庁管轄の墓苑がいくつもあり、勅使門も残っている。

仏像、掛け軸、古文書……と寺宝も数限りない。法然上人所用の数珠や袈裟、持蓮華、そして舍利(御遺骨)な

寺宝「泣不動縁起絵巻」

宅間法眼筆の室町時代の作とされ、浄土宗の教義とは直接繋がらない不動信仰が縁起絵巻の主題になっている。泣き不動説話の原形は平安時代の『今昔物語』で、当初は陰陽師である安倍晴明の験力を語るものだったが、三井寺の常住院の不動尊と結びつき、不動が証空の報恩利他の心に感じて涙し、師弟どちらも助けるといふ利益話に変わっていったとされている。

「泣不動縁起絵巻」に登場されるお不動さまをお祀りしているのが、大遠忌に合わせ平成二十二年に復興された不動堂。泣不動尊がご本尊であるが、秘仏のため平成二十三年三月に新たな不動尊坐像が安置され、二十五日に開眼式が行なわれたばかり。証空の苦しみを代わって受けたということから「身代わり不動」と呼ばれ信仰されている。毎月二十八日にはお不動さまの縁日が行なわれる。



「泣不動縁起絵巻」あらすじ

三井寺の智興内供が重病にかかり、陰陽師の安倍晴明に占ってもらったところ、弟子の中で身代わりになる者があれば助けることができると言われた。智興には多くの弟子があったが、すぐには誰も申し出がな

境内に残る皇室のゆかりの数々

【皇室の墓苑】

清浄華院の墓地には、宮内庁管轄の堀で囲われた大小の墓苑があちこちにあり、多くの皇族の方が眠っている。ここに墓参できるのは皇室関係者、または許可を受けた者に限られ清浄華院の僧侶や関係者ですら許可なく立ち入ることは禁じられている。



【菊の御紋】

創建以来皇室と同じものを使用していたが、明治になって現在の葉菊の紋に変更された。この特別な紋が瓦などに使われている。



【勅使門】

清浄華院の本来の正門にあたる門。江戸時代も現在のように普段は閉じられており、皇族や堂上家の参拝の時のみ開けられることになっていた。現在の門は昭和9年に再建されたもの。



(浄土宗大本山清浄華院蔵)



不動明王が死ぬはずだった証空の身代わりになったことを、不動明王が地獄へ行くという図様で描かれている。意外な仏の出現に平伏する閻魔王が印象的な図である。

(浄土宗大本山清浄華院蔵)



祈祷する安倍晴明と式神が描かれている。手前の黒い服を着た人物が安倍晴明とされ、悪霊や魔物と対決する陰陽師・安倍晴明のイメージを作った絵の一つとされる。



▲大きな法要が執り行われる大殿。法然上人像が内陣正面に、不動明王と皇室の尊牌が両脇陣に祀られている。



◀向阿上人を祀る是心堂では仏花に松を飾っている。これは向阿上人の著作『三部仮名抄』によるもので「念仏の教えは、永く変わらず緑でありつづける松のようなものだ」という意味が込められている。

▶大方丈の前で花を咲かせる桜の横には、篤姫の曾祖母にあたる薩摩藩^{ちまのかた}八代藩主の側室・智満方の墓が建立されている。



ど、浄土宗の信者には一度は見てもいい超お宝である。また山門脇にある不動堂に關わる泣不動の縁起絵巻が残っていて、陰陽師の安倍晴明が登場する(下の欄参照)など、こちらも見逃さない。大震災の影響で、旅行も控え気味だが、京都へ行く機会があったらぜひ立ち寄ってもらいたい本山である。なお、その時は梅窓院の檀信徒であることを告げてみて欲しい。おもてなしがグレードアップするかもしれない。

かった。ところが、自分が代わりになりましよう。最も若い証空が申し出た。身代わりを決心したものの証空は帰郷し年老いた母に説明をした後、泣く泣く師のもとへ帰っていく。清明の祈祷により智興内供は無事助かった。師の病を受けた証空は自坊に帰り、年来信仰していた不動明王に後生を祈ると不動明王が血の涙を流し、「汝は師に代わる、我は汝に代わらん」と言いつて檀の上に落ち、たちまち証空の病は回復した。

今号で特集した清浄華院は 台下の頃に中島住職が御忌の唱讚導師を務めたこともあり、梅窓院とは縁が深い本山のひとつだ。今春から台下にあがられたのが東京増上寺門前の天光院の 台下。その 台下を訪れ、お話を伺った。

◆お忙しい中お時間をいただき、ありがとうございます。

台下(以下台下) いいえ、皆さんこそ東京からようこそお出でいただきました。梅窓院さんは大丈夫でしたか。

◆色々な形で大震災の影響がありますが、幸い少しの被害ですみました。お心遣いありがとうございます。

さて、先生は東京のお寺から、88歳というお歳で京都へと生活に移されたわけですが、とても大きな決断をされたのかと思います。

台下 私は滋賀で生まれ、小学校2年生から5年生まで京都の宮津で生活しました。そして小学校6年生からは三重県の津に、そこで中学校、佛教専門学校(現佛教学部)に通い、大正大学に進みました。24歳で増上寺の前にある天光院に養子縁組、先代の後を継ぎ、長く住職を務めさせていっていただきました。

そして、孫に住職を譲って間もなくお声を掛けていただいたのですが、今申しましたように関西は故郷みたいなものですし、私のことを色々ご存じの上でお声を掛けていただいたのですから、お受けした次第です。

◆なるほど、先生といえば、浄土宗の中ではサンスクリット語の偉い学者さんで、勸学という最高の肩書をお持ちと聞いています。

また、先生はご自分のお寺だった天光院で天光院展という美術展を開かれていて、ご自分で描かれた舞妓さんの絵をよく出展されていると聞いていますが……。

台下 絵を描くのは好きです。よく舞妓さんの絵といわれますが、それは下手の横好きですから、富士山の絵を描いても誰も見てくれない。でも、下手でも舞妓さんの絵は珍しいから誰でも見てくれる(笑)これが真相です。でも、知恩院の絵を描いて絵ハガキにしたりしていますから、舞妓さんばかりではありませんよ(笑)。



大正11年3月滋賀県生まれ。昭和19年大正大学仏教学部聖語学(現梵文学)卒業。38年東京教区芝組天光院住職就任。平成22年12月大本山清浄華院法主就任。昭和46年大正大学教授就任以後、同学長、芝学園理事長、浄土宗教学院理事、勸学院勸学など宗内外の要職を歴任する一方、天光院では幼稚園の運営、そして天光院展(美術展)、コーラス部創設など趣味も幅広い。平成7年には勲四等旭日小授章されている。



右より 執事、 執事長、中島住職、 台下、 編集長、川添上人。

◆天光院ではコーラス部も作られていたと聞いています。絵画に音楽にとお元気で活躍ですね。

台下 いまではだいぶ増えましたが、私が入った頃の天光院は檀家が50~60軒ぐらいで、しかも、先代は身体が弱くて法事も5分ぐらいでした。そういう意味では時間があり、勉強に打ち込みながら、色々なことをやってみることができました。

◆そうなのですか。次にサンスクリット語との出会いをおきかせいただけますか。

台下 佛専時代に仏教を学ぶには、梵語—サンスクリット語—を勉強しなくてはならない、と断言する先生がいて、その言葉に自然と導かれたのです。確かに仏教はサンスクリット語が基本で、サンスクリット語を語源とする言葉を私たち浄土宗でもよく使っています。南無阿弥陀仏もサンスクリット語からきていますから。

◆勉強は面白かったですか。

台下 それは楽しかった。仲間うちでは梵語の授業を受けることは苦行と敬遠されていましたがその先生の自宅での講義にも夢中になっていました。

私は若い頃から足が悪かったので徴兵もされずに戦時中にも勉強できました。やがて教わる側から教える側になったのですが、私が生徒だった時と同じように梵語の学生は一人か二人しかいない。まるで個人指導でした。今でも龍の会という、当時の院生たちとの会が続いています。

◆台下は英国のランカスター大学に行かれたことがあると聞きましたが。

台下 私が大正大学に務めている時に三笠宮様がいらしたことがあって、「これからは英語で発表できるようになりましょう」とおっしゃった。それをお寺の彼岸法要で話したら檀家さんがカンパを出してくれた。夢のようでした。

◆台下を応援されていたのですか。

台下 ありがたいことです。お蔭様でランカスター大学で三笠宮様と一緒に学会発表をすることができました。そして、この経験が活き、大正大学の事務局長時代に埼玉県松伏の土地を実践大学から譲り受ける時に役立ちました。

◆宮家とご縁がおありなのですね。こちら清浄華院は元は御所内にあったお寺ですから、これも引き合わせでしょうか。

台下 そうかもしれませんね。

◆梅窓院とご縁は。

台下 ええ、先代は親友で、天光院が幼稚園を設立するときには大変お世話になっています。

そして今は梅窓院さんに清浄華院の東京出張所になっていただき、現住職がその所長さんです。二代にわたって御世話になっているということです。

◆いえいえ、こちらこそ御世話になっています。今日は貴重なお時間をありがとうございました。

青山散歩道

馳走おか

馳走 喜多おか

旬を追いかける

青山にお店を構えて六年、落ち着いた霧囲気です。気軽に楽しめる懐石料理店。

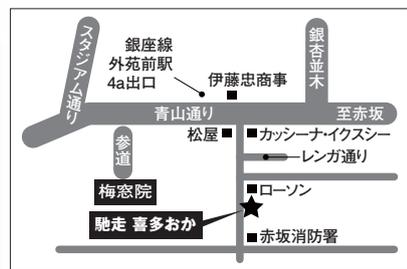
今回はランチに伺ったが、お得なお弁当から充実のコースまでニーズに合わせて楽しめる。

目にも鮮やかな色とりどりの品々の中には、種明かしされないといけない創作メニューも楽しめる。

旬に合わせてメニューは一週間ごとに変わる。有機や産地にこだわった食材はもとより、「和食は水」と言われるように、残り香を損なわないよう、現地の水まで取り寄せている。

京都の料亭で腕を磨き、料理教室の講師も務める料理長の巧みな話術もお楽しみ。二つ。

法要後の食事にも利用でき、精進料理もオーダーに応じてくれる。旬を追いかけて毎月でも通いたくなる逸店だ。



営業時間/ランチ 月~土11:30~14:00
 ディナー 月~金17:00~22:30(L.O.21:30)
 土17:00~21:30(L.O.20:30)
 定休日/日曜日・祝日 席数/約24席
 住所/東京都港区南青山2-14-15五十嵐ビル1F
 TEL/03-5772-8539



▲カウンター席でご主人に食材を説明して貰いながらの食事もまた楽しい。



▲外観。



▲月に二度メニューが変わるお弁当も人気。



▶人気のそば点心は2100円。

青山俳壇

選者「ウェブ俳句通信」編集長

大崎紀夫

- ◎特選
- ロッカーに早や落書きの入学児

◎入選

- 懇ろに繻く法話法然忌
- 母偲び菜飯に向ふひとり膳
- 春愁や眼とぢれば亡夫若し
- 四世代女ばかりや彼岸寺
- 旅ゆくや春の日の湯波金色に
- 伊豆の海に春の望月のほりけり
- 黄小仙心地よく咲きぬたりけり
- 木枯らしに火の用心の声まばら
- 豪雪に命かけたり屋根の上
- 早春の大地震のあり無事祈る

◎選者詠

○庵治石を切り出す山に嘯れり

（ワンポイントアドバイス）

三月十日の東日本大震災を句にする人が多くありますが、わたくしの考えでは、自分の体験した範囲で句作りの方がよからうと思います。テレビなどで悲惨な光景を見て、それで作句する姿勢にはどこかウサン臭いものがあり、被害を受けた人たちの心情を思うと、安易な句作りは避けた方がいいのではないのでしょうか。こういう事態にはそれなりの厳しい作句姿勢が要求されるものと覚悟をもつてのぞむことが大切だと思いますが、いかがでしょうか。

大崎 紀夫

投句募集

今回は「夏の季語」でご自由にお詠み下さい。7月6日を締切り、9月発送の「秋彼岸号」にて発表致します。住所、氏名をお書き添えの上、ご応募下さい。皆さまの投句をお待ちしております。
 〒107-0062 港区南青山2-26-38
 梅窓院「青山俳壇」投句募集係

「やぶれ傘」会員募集

青山俳壇の選者、大崎紀夫先生による俳句の会です。ご興味のある方は、下記の番号までご連絡下さい。
 ウエップ編集室
 電話03-5368-1870

食は命

第四十三回

食養研究家 武鈴子

熱をさまし、胃腸を整えるイチゴ

イチゴはクリスマスケーキの素材によく使われるため、冬が旬と勘違いしている人も多いのではないのでしょうか。しかし、露地で栽培されるイチゴが実を結ぶのは晩春から初夏。夏が旬なのです。冬に多く出回るからといって、旬と勘違いして食べ過ぎるのは問題です。

果物のことを水菓子というように、水分たっぷりのみずみずしいイチゴは、体を冷やす涼性の性質です。熱を冷ます作用、とくに肝の高ぶりを抑えて余分な熱を取り除く働きに優れています。口が渇く方や肝機能が高ぶっている方、暑気あたりで食欲のないときなどには適しますが、冷えやすい人は控えめに!

ところで、私たちが食べているのは果実ではなく、めしべの土台となる「花托」という部分が発達したものだそうです。表面のつぶつぶが果実で、この一つ一つに種が入っています。

果物としてそのまま食べることの多いイチゴですが、ときには料理に応用してみたいかがでしょう。たとえば、イチゴ3個をフォークなどで粗めにつぶし、マヨネーズ小さじ1、練りからし小さじ1/3、レモン汁少々、塩少々と混ぜ合わせてイチゴマヨネーズを作り、ポテトサラダを和えたり、サンドイッチを作る。また、粗くつぶして白みそと合わせ、和風ドレッシングに。ワカメやキュウリのサラダにかけていただければ、暑い日にもさっぱりといただけます。イチゴの優しいピンク色も美しいアクセントになるでしょう。

行事予定

第53回 念仏と法話の会

6月17日(金)
 時間 12時半～(受付12時より開始)
 法話:「阿彌陀様の救いを戴く」
 講師 宮城教区 往生寺住職
 豊嶋 瑞俊 上人

開山忌法要・能楽奉納

6月11日(土)
 法要 午後3時～
 能楽 午後3時45分～ 本堂
 仕舞:「百萬」 能:「経正」

盂蘭盆会法要

7月13日(水)
 午前10時半より 本堂
 ※詳細は3面をご覧ください。

団体参拝旅行

一岐阜 高山・郡上—
 7月31日(日)～8月2日(火)
 ※詳しくは別紙チラシをご覧ください。

梅窓院会計報告について

毎年6月初旬に『青山』に同封しております会計報告ですが、本年より秋彼岸号に掲載させて頂くことになりました。つきましては、9月上旬にお送りする秋彼岸号紙面にてご覧下さい。

我が家の宝物!

お写真大募集!!

お孫さんと一緒のお写真と推薦者のおじいちゃん・おばあちゃんのコメント(30～150字程度)を青山文化村までお送り下さい。お孫さんのお名前、お年も忘れずに。(お送り頂いたお写真は返却できませんので予めご了承下さい)

〒107-0062

港区南青山2-26-38

青山文化村「我が家の宝物」募集係

発行 梅窓院
 発行日 平成23年6月1日
 発行人 中島 真成
 編集 青山文化村
 住所 〒107-0062
 東京都港区南青山2-26-38
 電話 03-3404-8447
 F A X 03-3404-8446
 ホームページ <http://www.baisouin.or.jp/>
 E-Mail jodo@baisouin.or.jp
 題字 中村康隆元浄土門主
 総本山知恩院第八十六世門跡

平成23年度 前期 仏教講座のご案内

全講座▶午後6時～8時 受講料▶無料 場所▶祖師堂

講題/唐の善導大師について

講師/阿川 正賢 先生(浄土寺住職 大正大学講師)
 ●第2回…8月12日(金) 善導大師の思想①—『観経疏』を中心に—
 ●第3回…9月15日(木) 善導大師の思想②—大師と法然上人—

講題/『発心集』を読む

講師/新井 俊定 先生(天然寺住職 大正大学出版会主管)
 ●第3回…7月27日(水) 種々な靈験譚—靈験の功罪—

講題/大乘仏教を読む

講師/勝崎 裕彦 先生(香蓮寺住職 大正大学仏教学部長・教授)
 ●第1回…6月23日(木) 華嚴経の世界
 ●第2回…7月21日(木) 華嚴経を読むI—善財童子の物語①—
 ●第3回…8月18日(木) 華嚴経を読むII—善財童子の物語②—

講題/法然上人のみ教え—『選択集』を読む—

講師/林田 康順 先生(大正大学准教授、大本山増上寺布教師、慶岸寺副住職)
 ●第3回…6月27日(月)『選択集』第4章①—ただひたすらに—

講題/宗教と現代文化論

講師/本林 靖久 先生(真宗大谷派僧侶 大谷大学・佛教大学等講師)
 ●第2回…7月1日(金) 水子供養と代理母出産
 ●第3回…8月26日(金)『おくりびと』と直葬

秋彼岸写真展開催

新年号よりお伝えして参りました秋彼岸写真コンクールの応募要項を同封致しました。是非皆様ご参加下さい。



東日本大震災義援金報告

3月11日に発生した東日本大震災に関しまして、3月16日(水)から寺院受付に募金箱を設置し、被災者救援のための義援金募金活動を行っております。4月20日(水)までに132,662円の募金があつまりました。ご協力頂きました皆様、誠にありがとうございました。お寄せ頂きました義援金は全て日本赤十字社にお送りしております。なお梅窓院では今後も募金活動を行なっていきます。